

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

| | |
|-------------------------|--|
| 研究課題名 | 新生児脳におけるニューロン新生とその病態：先端分析技術による統合的理解 |
| 研究代表者 | 澤本 和延 (名古屋市立大学・大学院医学研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在 |
| 研究期間 | 令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度 |
| 科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見 | <p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、新生児期に産生され移動・成熟する中枢ニューロンと周囲のグリア・血管細胞との相互作用とその形態学的特性と分子基盤を、独自に開発した三次元電子顕微鏡技術 (SBF-SEM) やメタボローム解析法 (PESI-MS/MS) などの最先端解析技術を駆使して解明し、新生児の脳障害の病態解明など臨床への展開を図ろうとする研究提案である。</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>ヒトにおいては早産や出産前後の低酸素状態などがその後の児の神経機能予後に影響するため、これらヒト生後脳研究の基礎となる本研究を推進することの重要性は明らかである。また、動物での分子細胞レベルの解析には大きな発展が期待できる。</p> |